

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500886
法人名	医療法人 近藤内科医院
事業所名	グループホーム はるかぜの里
所在地	徳島県板野郡板野町那東字野神前10番地1 (電話) 088-672-6020

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 18日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 6人, 非常勤 9人, 常勤換算 ゆうゆう棟 5.5, いきいき棟 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費3,000円、その他実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,150 円

(4) 利用者の概要(6月 16日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	54 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	近藤内科医院、ひろせ歯科
---------	--------------

徳島県 グループホームはるかぜの里 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関には利用者が書きためた数冊の俳句集や季節の花々、家族の手作り作品等が飾られ、壁には利用者が墨書した理念が掲示されている。建物内部は採光が良く、居室の窓には田園風景が広がっている。利用者・職員は近隣の方が多く入居前から馴染みの関係がある。和室の図書コーナーで読書する方が居たり、利用者が自分でたんだ洗濯物を入れる名前入りの籠が用意されているなど家庭的な雰囲気の中で生活されている。家族が利用者のために物作り教室を開催するなど協力的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の開催頻度は2ヶ月に1回の開催となっており、市町村との連携は成年後見制度を利用する際に相談するなどして改善されている。鍵をかけないケアの実践についてはホームの立地や建物構造から実現が難しく、改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の目的と意義を全職員が理解して自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回以上(H19年度は7回)開催され、利用者、家族、地域住民、町職員、地域包括支援センター職員で構成されている。会議では事業所から利用者状況や行事、防火訓練等の報告をしたり、参加者から運営に対する意見が出されるなど活発に討議されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や家族会、運営推進会議等で常に問いかけて意見を言ってもらえるよう配慮している。出された要望等は職員会議で協議し、改善に向けて取り組んでいる。また、利用者の日頃の暮らしぶりやエピソードは、毎月の手紙に写真等を添えて家族に伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学生や保育園児、ボランティア等の来訪があり、また近隣の食堂を利用したり祭りや運動会に参加するなど、積極的に地域と交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で討議した「敬愛」の理念に、「笑顔で語り合い安心な暮らしを目指します。家族や地域との繋がりを大切にします。」の実践目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングやトイレに掲示し、常に意識できるよう工夫している。また、ミーティング等で理念にそった支援が実施できているか確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生や保育園児、ボランティア等の来訪があり、また近隣の食堂を利用したり祭りや運動会に参加するなど、積極的に地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的と意義を全職員が理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。前回評価での課題のうち「鍵をかけないケアの実践」については改善されていないが、実現に向けて対応方法を繰り返し検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回以上(H19年度は7回)開催され、利用者、家族、地域住民、町職員、地域包括支援センター職員で構成されている。会議では事業所から利用者状況や行事、防火訓練等の報告をしたり、参加者からは運営に対する意見が出されるなど活発に討議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	成年後見制度利用について相談をするなど、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりなどは写真を添えて毎月手紙で伝えている。金銭管理についても一人ひとりの出納帳に記録し、毎月家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会、運営推進会議等で問いかけたり、意見箱を設置するなど要望等を言いやすいよう工夫している。また、第三者苦情処理委員も依頼している。意見等は事業所にとって大切な宝であると認識し、職員会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットに職員を固定し、馴染みの職員による支援を受けられるようにしている。やむを得ない異動の場合には利用者には十分説明し、新しい職員の挨拶文を付けた顔写真を掲示するなど、馴染みの関係が早く築けるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に実務者研修・リーダー研修等を受講している。また資格取得についても積極的に支援している。研修内容や資料は全職員が閲覧して共有できる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報交換や相互評価事業に参加するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には家族等とともに見学に来てもらう等、他の利用者や職員、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごしあえる関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者や家族、職員がお互いに学び支え合いながら、家事の分担や菜園作業、家族による物作り教室などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情等から意向を伺ったり、利用者主体で開かれる「はるかぜ会議」で利用者からの意見を聞いたりするなど積極的に取り組んでいる。また家族とも連絡を取り合って意見を聞くなど、本人本位の支援ができるよう検討を重ねている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や希望、職員・医師の意見を基に課題を把握し、利用者主体の介護計画となるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しと、毎月のモニタリング結果やスタッフ会議での意見、状況の変化などに合わせた見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況・要望に応じて、通院や送迎など必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を把握し、家族等と協力しながら受診できるよう支援している。さらに協力医による週1回の訪問診療があり日頃の健康管理を行うなど適切な医療が受けられるよう、配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では対応できる範囲のケアについては、家族やかかりつけ医等との話し合いが持たれ、全員で方針を共有している。状態の変化が見られた時には関係者間で連絡を取り合い、家族の気持ちの変化や利用者の思いに注意を払いながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナー等の勉強会や、日々のミーティングの折に注意を促すなどして職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やペースに配慮し、買い物や散歩など希望にそって柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味付けや盛り付け、食後の後片付けなどは利用者ができる範囲で関わっている。菜園で育てた野菜が食卓に上ることもある。しかし職員は介助を中心に動いており、利用者と共に食事を楽しむことには至っていない。	○	職員は介助するだけでなく、会話をしたり同じテーブルに着くなど食事を楽しむことができるよう工夫することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴できるよう努めている。仲のよい方どうしは一緒に入るなどして楽しませている。入浴を嫌がる利用者にはお気に入りの入浴剤を使用するなど、気持ちに変化をもたらし気分よく入れるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや菜園作業などで、経験や知識を発揮する場面を作っている。また、利用者と職員で毎月「はるかぜ会議」を開催し、外出先や行事を相談するなど積極的に意見を述べてもらう機会をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分に応じて散歩コースを変え、知り合いの家へ寄り道することもある。また、利用者の希望を聞いてドライブで季節の花を見に行ったり、外出や買い物等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関前は交通量の多い県道に面し、ホームからの見通しも悪く危険であるので、サービス利用開始時に家族にその旨を説明し、了解を得たうえで玄関は施錠している。他に自由に出入りできる場所もない。	○	鍵をかけない支援の方法を工夫し、利用者が不安や閉塞感を感じず安全で自由な暮らしができるような配慮が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや緊急連絡網を整備し、月1回夜間の通報訓練等を行っている。また、消防署の協力を得て避難や消火器の使い方などを訓練している。非常食が準備され、運営推進会議を通じて地域の支援体制も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎回チェック表に記録し、関係者間で情報を共有している。母体医院の医師から定期的に助言をもらい、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には家族の作品や利用者が作った何冊もの俳句帳、季節の花等が飾られている。壁には物作り教室での作品や、日頃の利用者の表情を捉えた写真が掲示されている。居間に続く和室には図書コーナーがあり、読書や紙芝居が楽しめる。居室前の廊下には長椅子が置かれ一人でくつろげる場にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の大きな事務机で新聞を読むのが日課の方や、家族の写真がいっぱいの部屋、かなり乱雑に見えるが利用者には居心地満点の部屋など、利用者の意向にそって個性的な居室づくりがなされている。		